



第41回「九州現代音楽祭 in 長崎」開催報告

○実行委員より

「第41回九州現代音楽祭を終えて」

実行委員長 安川徹（黙磷）

今回の音楽祭が無事終演を迎えられたことに、ホッと胸を撫でおろしている。今回は、会場のチトセピアホール、演奏者団体として長崎 OMURA 室内合奏団、そして練習場として活水女子大学の協力を得ることができ、大変円滑に運営することができた。とはいえ、観客動員については課題が残る。今後に期待しつつ、作品を発表していただいた協会員の方々、そしてそれを素晴らしい演奏で支えていただいた演奏者の方々に深く感謝したい。

「第41回九州現代音楽祭に関わって」

実行委員 嘉村真衣

今回実行委員・出品者という2つの立場に関わりました。多くの方のご協力や支えのお陰で、現代音楽の演奏会が長崎にて開催できたこと、大変感謝いたします。出品者としても貴重な経験をさせて頂き、今後の糧となる機会となりました。



第41回九州現代音楽祭
プログラム表紙



←本演奏会の動画
(YouTube)



集合写真（作曲家・出演者3名・会員）：チトセピアホールロビーにて



1. 齊藤武「バストロンボーンのための〈葉隠〉」
バストロンボーン 江田雅哉



2. 禹鐘億「Projection for the Piano no.1」(1973)
「Projection for the Piano no.2」(1976)
ピアノ 下条絵理子



3. 米倉豪志
「Escape Velocity for string quartet」
ヴァイオリン クルピタ恵美子・太田さあり
ヴィオラ 長嶋拓生 チェロ 田辺清士



4. 嘉村真衣「Résonnement」
ピアノ 寺谷陽子



5. 加藤豊
「アルトまたはメゾソプラノの為の三つの歌曲
〈光陰三つの情景〉」
田中俊廣作詞
ソプラノ 福地友子 ピアノ 下条絵理子



6. 吉田峰明「Galatea 〈改訂版〉」
ピアノ 吉田峰明



7. 安川徹
「ピアノを伴う木管四重奏のための〈冬への扉〉」
フルート 永留結花・小林利美
クラリネット 樋口芳美 ファゴット 種口敬明
ピアノ 寺谷陽子

○作曲者より一言

「バストロンボーンのための〈葉隠〉を
出品して」
齊藤武

今回の作品発表に寄せて、鍋島藩武士の指南書「葉隠」からインスピレーションを受けた楽想を基に作曲した。教え子である江田俊哉君が、作曲者の構想を十分汲み取って見事にバストロで見事に演奏してくれて、音域の広さ、独特の表現力、特殊奏法も駆使し、非常に満足がいく成果が出せたと思う。ありがとうございました。



作曲者(齊藤)・演奏者・
佐世保でジャズピアニストの教え子と



作曲者(米倉)・演奏者

「長崎が大好きになりました。」

米倉豪志

無闇に困難な譜面で演奏者のみなさんには大変なご苦労をおかけしましたが、本番で最高の演奏をしていただきました。心から感謝しています。

弦楽器の取り扱いにいくつかのチャレンジを含め、想定の音を得ることができました。さらに可能性を追求してまいります。

運営のみなさま素晴らしい演奏会をありがとうございました。

「中華菜館【春夏秋冬】秘話」

吉田峰明

改訂前の旧「Galatea」作品内容に不十分さを感じ、間際まで手を加えるべく今回は自分で弾くことにした。練習では1日に2回通して弾ければいい方だったので、あの程度の演奏しかできなかったが(もちろん言い訳)…安川実行委員長と懇親会場探して銅座界隈中華街を探索して回ったことがちょっとした思い出にはなりました。



終演後 登壇する作曲者

○出演者より一言

「共鳴～第41回九州現代音楽祭での作品との出会いを通して」

ピアノ 下条絵理子

この度は第41回九州現代音楽祭の開催誠にありがとうございました。

今回追悼演奏として禹鐘億氏の作品を2曲演奏させていただきました。韓国作曲家の作品に取り組むことが私にとって初めての事で、音楽祭を通しての大きな出会いとなりました。音の並びの難しさもさることながら、休符の感じ方、フレーズ感、感情表現の激しさを感じさせる音楽をどのように表現しようか、作品の持つパワーや世界観が聴いて下さる方にどのように伝えられるか、試行錯誤の日々でした。本番は作品の持つ力に強く支えられたと感じています。禹氏がどこかで聴いて下さっているだろうか、どのような感想を持たれるだろうか、とも感じた時間でした。

又、加藤豊氏のソプラノとピアノの為の作品を今回初演させていただきました。加藤氏の作品はこれまで初演の機会を何度かいただき、私が現代音楽に触れるきっかけともなりました。いつも信頼を寄せていただき、一緒に音楽作りをさせていただきました事、大変感謝しております。作曲家が作品を生み出し、演奏家が作品に共感し表現する過程を、加藤氏、ソプラノの福地友子氏と共に体感する事が出来ました。

今回お二人の作曲家の作品を演奏させていただく貴重な機会を頂戴し、作曲家が作品を生み出すエネルギーを感じ、それに共鳴する瞬間に触れ、ピアニストとして大きな経験になったと共に、作品を通して自身を内観出来る機会にもなったと感じています。

音楽祭開催の為にご尽力下さった皆様、本番の時間を共有下さいました皆様、本当にありがとうございました。九州作曲家協会の益々のご発展を祈念しております。



加藤作品 リハーサルの様子

「第41回九州現代音楽祭に参加して」

ファゴット 種口敬明

今回、九州作曲家協会第41回九州現代音楽祭に参加させて頂きました。

曲は安川徹氏の「冬への扉」ピアノを伴う木管4重奏のための(2020)でした。

安川氏の作品は優しくほっこりとした雰囲気、たとえ雪の表現の部分ですら温かさを感じながら幸せな気分演奏しておりました。

同じ時代を生きている作曲家の作品を演奏出来るということはこの上ない幸せな事であるし、その作品を後世に伝えていく演奏家の大切な使命でもありと考えております。

貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。



とある日の練習時にて

～今後の協会主催事業のご案内～

♪九州作曲家協会セレクトコンサート「若手女性デュオ「Leone」による21世紀のサロンコンサート」

2024年3月29日(金)18:00開演 ふらっとb2480(長崎県長崎市)

♪第42回九州現代音楽祭 in さいぎ with 和楽器アンサンブル『息吹』(仮)

2024年10月20日(日)佐伯城山さくらホール(大ホール)(大分県佐伯市)

*その他の詳細は追ってホームページにてお知らせいたします。

Journal 編集: 嘉村真衣

§ 賛助会員募集中 §

九州作曲家協会では会の趣旨に賛同し、所定の年会費を納める方(法人もしくは個人)を賛助会員として募集しています。年会費は法人会員一口10,000円、個人会員3,000円です。会員になると本会主催事業へのご招待、機関誌「ジャーナル」の受け取り、法人会員については本会主催事業プログラムに法人名掲載などの特典があります。詳しくは事務局にお問い合わせください。

<九州作曲家協会> <http://kcaj.net/> (「Journal」バックナンバーがPDFで掲載されています)

〒876-0802 大分県佐伯市日の出町9-9 Tel.070-8538-2946 e-mail: kyusyucomposersassociation@gmail.com